

ナマステ

特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌



129 号

2017 年 9 月 20 日発行号

植物と人々の博物館』 vol.21

植物と人々の博物館と事務局が小菅村内で移転しました～！！

本会と小菅村と東京学芸大学が連携して、小菅村中央公民館で展開してきた「植物と人々の博物館」及び本会事務局が移転しました。この度、小菅村中央公民館が耐震工事を行うことに伴い、小菅村内で移転することになりました。小菅村の民具を除く、書物・さく葉標本・本会の 40 年の蓄積については小菅村中組地区（小菅の湯のある地区）井刈（いかり）の細川家倉庫に収納させていただきました。現在は、夏の事業もあったため段ボール山積み状態ですが、秋～冬にかけて整理し、展示の準備も進めていく予定です。

また、事務局につきましては、とりあえず事務局の黒澤家ということで、ご承知ください。



大菩薩登山から下山した冒険探検部の学生たちと杉田甲斐くんが、さく葉標本と本棚の移動を手伝ってくれました。



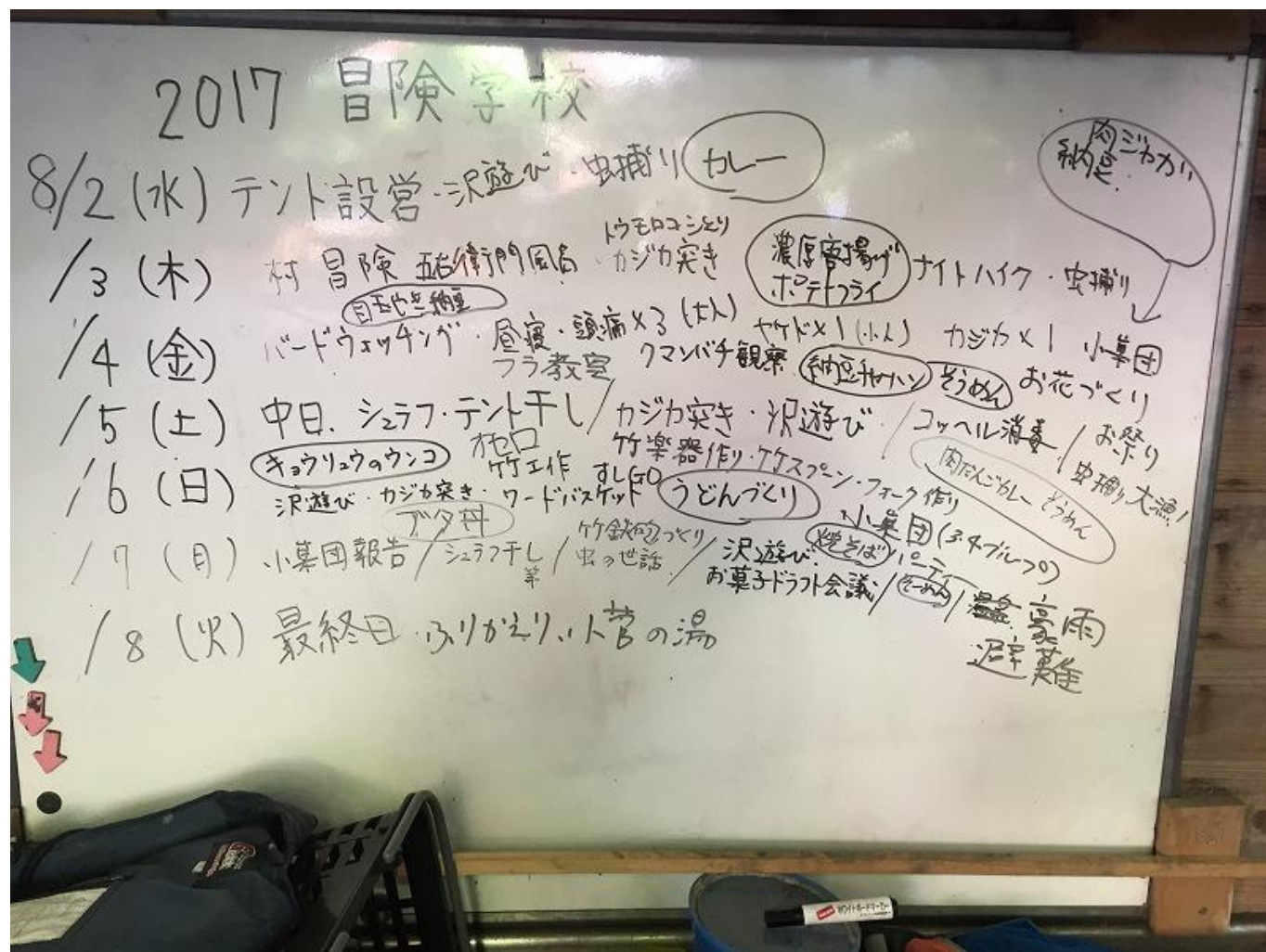
ログビルダーの山本さん、小林さんと加藤翔くんが、廊下と事務室の展示棚を解体、移動してくれました。

活動報告

その1 「こすげ冒険学校」 報告

8.4~10

参加者 14 名と過ごした一週間の「こすげ冒険学校」でした。今年も川遊び、ナイトハイク、虫捕り、カジカつき、お祭りへの参加、小集団行動、竹細工など、多くの活動を行うことができました！！



小学校 4 年生以上の参加者は、キャンプ中に「小集団行動」ということで、少人数のチームでキャンプ場を離れ 1 泊 2 日の旅に出ています。必要な装備などもチームごとに相談して、出発しました。



参加者の皆様には、修了証と写真の CD-R を同封しましたぞ！！



キャンプで一番楽しかったことはカジカつきと川遊びです。特に川遊びの水のかけあいが楽しかったです。途中のごえもん風呂でけがをしてしまったけど、ほかのことをし、遊んだのでそのあとの日も楽しかったです。最後の温泉は入れなくて残念だったけど、おみやげをたくさん買ったのでよかったです。途中で台風もきて少しこわかったけど次の日になったらもうほとんどやんでいたからびっくりしました。

あっというまだったけれどこの1週間とっても楽しかったしとってもべんきょうになりました。

1週間遊んでくれたり、みまもってくれていたりしてくれてありがとうございました。また冬も来年もいきます。

(小3 和田春音さん)



キャンプ場で大雨、遊んでいた川は増水。



避難所にて夜を明かします。



翌日は船木民宿をお借りしてミ振り返りなど。

今年はキャンプ最終日を前に、集中豪雨のため避難所で夜を明かすということがありました。台風の進路から外れていたため、キャンプを継続してましたが、「線状降水帯」もあり集中的に雨が降りました。

8月7日の予定は、午前中いっぱい自由に遊んで、午後からは小菅の湯に入って、晩に一週間のキャンプを全体ミーティングで振り返りをする予定でした。13:00頃より強い雨が降り続け、小菅村役場から直接、情報をいただきながら対応していましたが、17:00に避難準備情報を経て、18:00に避難勧告が出ましたので、事前に晩御飯をみんなで済ませていたので、指定避難場所である「きぼうの館（小菅村のデイケアセンター）」へ避難しました。子どもたちの安全を最優先なので、避難が終了してから保護者の皆様にはご連絡をさせていただきました。ご心配をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

避難所では佐伯順弘さんと鈴木風馬くんを中心に、避難所で過ごすという自分たちの置かれている状況を子どもたちに説明・理解してもらい、小菅村役場の皆様のご協力があり、無事に夜を明かすことができました。翌朝は、6:30に避難勧告が解除されたため、キャンプ場に戻って豪雨により一変した川の様子を見ながら荷造りをして、小菅の湯近くの船木民宿をお借りして移動。一週間のキャンプを全体ミーティングで振り返りをしている間に、交通機関の回復と小菅の湯が通常営業の情報が入ったので、予定通りの時間での解散をできるようになりました。

子どもたち、若いスタッフたち、主催する私たちにとっても良い対応と経験ができたと思います。これはこれで、大きな財産になると思っています。

避難所で参加者のヨシトくんが「こんなところに泊まりたくない～、キャンプ場に戻りたい～」と言っていたそうです。安全で、トイレも水洗で、ブヨも蛾も飛ばない場所よりも、キャンプ場に戻りたいとは！！後ほどスタッフから聞いて、なんか嬉しく思っちゃいました！！

(事務局 黒澤)



毎晩の虫捕り、いっぱい歩いたね！！

お祭りは準備のお手伝いと本番で二晩通いました。

キャンプ場にまったり～。

今年のキャンプで楽しかった事は毎日虫捕りに行けた事と小集団（行動）に行った事が楽しかったです。来年も小集団に行きたいです。そして、一番ワクワクした事は、小菅川が 10 分に 60 センチくらい水量が増え、とうとう非難したことです。すごくいい体験でした。また行きます。（小 5 佐藤陽亮くん）



お祭りの準備手伝っています。

カジカつきは高校生スタッフも教え役に。

バームクーヘンづくり。



最終日は集中豪雨による避難もあったので、事前に集合写真を撮っておいて助かりました！！
来年も待ってます～！！

その 2 「やまめ・いwanaキャンプ」 報告**8.13~15**

親子参加も可能な「やまめ・いwanaキャンプ」。今年は増水の影響もあり、タイヤチューブでハードに流されることができました！！



水量の増えた雄滝へ！！



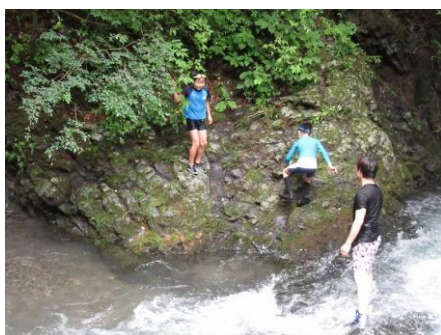
弓矢で遊んだり。



川遊びの後はまったり～。



マシュマロとバーベキュー



川は水量が多く怖いけど楽しい！！



来年もお待ちしております！！

■ 活動案内 ■

その 1 「冒険学校 まふゆのキャンプ」**12.26~28(2泊3日)**

毎年恒例の冒険学校「まふゆのキャンプ」を体験して、暖かいお正月を迎えませんか？

小菅村ではお正月の準備がもうはじまる頃です。日中は、村内を自由に動き、村の中でもちょっと面白いところに行きましょう。焚火・薪割り・ナイトハイク・星空観察・バードウォッチング・アウトドア料理・滝探検・・・その場で思いつく限り、いっぱい遊んで、食べて、寝る。そんなキャンプです。個性あふれるスタッフがみなさんの参加を待ってます。常に火とともに生活する2泊3日です！！

日 程：12月26日（火）～28日（木）

場 所：小菅村のいつものキャンプ場

宿 泊：テントまたは野宿またはログハウス

対 象：小学校3年生～中学校3年生

定 員：20名先着順です。

参加費：会員¥22,000 非会員¥24,000

（奥多摩駅からの交通費・食費・宿泊費・保険代などが含む）

申込み：ハガキ・もしくはE-mailに住所・

氏名・年齢（学年）・性別・電話番号を記入の上、12月8日（金）までに事務局まで参加をお伝えください。



この事業は2017年度 国土緑化推進機構「緑と水の森林基金」の助成を受けて開催します。

『藤農便り』 第 10 号

宮本茶園

宮本 透（自然文化誌研究会）

6 月 20 日に雇用保険の失業給付が終了、児童クラブ勤務以外のすべての時間が畑仕事に使えるようになりました。昨年の夏は会社勤めで掃除・洗濯・事務仕事に追われ、農作業に専念できなかったのですが、この夏は農民として茶と穀物栽培に全力で取り組む充実した日々を過ごしています。

敗戦 72 年目の長崎原爆の日、悲しい別れがありました。8 月 9 日、三里塚芝山連合空港反対同盟事務局長の北原鉦治さんが亡くなりました。享年 95 歳、半世紀を超える三里塚農民の成田空港廃港の闘いの先頭にはいつも北原さんがいた事を思い出します。モロトリアムの 20 代、三里塚の大地で国家権力の横暴に絶対妥協せず体を張って抵抗する意味を学んだ事は、私の労働者・農民人生の礎となりました。共謀罪が成立し改憲・朝鮮侵略戦争が現実になろうとしている昨今、北原さんが訴え続けた戦争絶対反対の思いを受け継ぎたいと思います。

・茶仕事

5 月に収穫した茶葉は、県農協茶業センターへの出荷と自家用荒茶に加工しました。新規就農者の私は県農業技術センター職員巡回指導で、木村普及員より栽培技術や茶園経営などを学んでいます。これまで津久井地区の茶は茶業センター出荷以外に自家用荒茶販売のみで、製品加工はほとんどありませんでした。私は木村普及員のアドバイスで、自家用荒茶の煎茶加工に挑戦することにしました。木村普及員から紹介された加工委託業者は秦野市の高梨茶園、3 年前私が茶農家を目指すきっかけとなった秦野市公民館手揉み茶講習会講師の高梨晃さんでした。高梨さんに加工委託した荒茶は、父上の孝さんから「努力の跡がうかがえる」と評価してもらいました。1 月からずっと刈ったススキや竹チップを急斜面の茶畑に運び、畝間に敷き詰めてきた事が報われたようで嬉しくなりました。孝さんは「畑を歩いた地下足袋の足跡の数だけ味が美味くなる」と話され、毎日畑に出て管理する事の大切さを改めて確認しました。

高梨茶園の 2 番茶加工が終わった 7 月 28 日、荒茶の製品加工が行われ、作業に立ち合わせていただきました。清潔な加工場で荒茶はていねいに篩にかけられ、茎や粉が選別されます。大きな葉は切断機で小さく均一に形が整えられ、唐箕で碎葉を除き、最後に火入れ機で仕上げます。私の拙い文章ではこのような表現しかできませんが、晃さんの数時間にわたる作業工程を目の当りにすると非常に熟練した技術が必要なことがわかります。きれいに仕上がった煎茶をさっそく試飲させてもらいましたが、荒茶の青臭みが抜けた爽やかな香りと柔らかな味に我ながら感動しました。製品は品質保持できるように窒素充てんした包装で、消費者の皆さんにお届けします。試飲用パックもたくさん作りましたので、藤野においての際にお声掛けいただければ差し上げます。新茶の季節は過ぎてしまいましたが、たくさんの方に無農薬・有機栽培の佐野川煎茶をご賞味いただければ幸いです。

6 月 6 日、藤野茶業部の整枝講習会が上岩の茶畑で開催され木村普及員から 2 人用摘採機や整枝機の操作法や機械に適した樹形作りを教わりました。梅雨の晴れ間に茶業部から紹介いただいたヘルパーの方といっしょに整枝作業を行いました。きれいに管理された茶畑は景観的にも気持ち良いものです。除草・施肥とこまめに畑に通い、地下足袋の足跡を増やすよう精進しています。



高梨茶園



荒茶の篩い分け



火入れ



手前が荒茶、奥が完成した煎茶



製枝後の上岩畑



製枝後の和田畑

・津久井在来大豆栽培

津久井地区で古くから栽培され、大粒で甘くコクのある津久井在来大豆。煮豆や味噌等、食生活には欠かせないものでしたが、都市近郊農業に適した経済性の高い作物が栽培されるようになり幻の大豆と言われるほど生産量が減ってしまいました。2000 年頃から津久井在来大豆の良さが見直され、栽培に取り組む農家や市民グループ・行政・農協等の普及活動もあり近年作付面積や生産量が増えています。つくいやさいリーダーの石山草子さんは、相模湖地区で新規就農以来ずっと津久井在来大豆の栽培・加工に取り組んでいます。今年は石山さんの呼びかけでつくいやさいの仲間もそれぞれの畑で大豆栽培を始めました。

旧相模湖町千木良が発祥の津久井在来大豆は晩生種で、6 月下旬～7 月上旬に播種します。6 月 24・25 日、草子農園サポーターや明治大農学部学生ボランティアの協力で内郷と石山さんの千木良・若柳の畑に植付けをしました。初日は播種、広い面積なので播種機で等間隔に 2 粒ずつ種を播き、皆で覆土・踏圧していきます。2 日目は防鳥ネット張り、ハトやカラスが入れないよう畑全面にネットを広げ隙間にテグスを縦横無尽に張り巡らします。チームワークで効率よく作業したおかげで、鳥の食害もなくきれいに発芽しました。

7 月から週末は防鳥ネット外し・中耕・土寄せ・除草と管理作業が続き、草子農園サポーターの方々とも親しくなりました。8 月 13 日、作業後にサポーターやつくいやさいの仲間が集まり自慢の野菜や食材を持ち寄ってバーベキューをしました。もぎたての枝豆・手製塩麴で味付けした焼肉・畑のハーブを使ったパスタ等、たくさんの料理に舌鼓を打ち、夜は花火を楽しみました。畑では大豆の開花真っ盛り、秋の収穫が楽しみです。

ちなみに 1 月からお手伝いしてきた内郷の tetote farm ですが、富岡さんの転居で 11 月下旬地主に返すことになり、8 月から私の肩書きは宮本茶園となりました。



播種



発芽



土寄せ

・ミレット 藤野雑穀栽培講座

前号でお知らせした雑穀栽培講座は、案内チラシを藤野周辺の公共施設や雑穀街道関連施設で配布し、メルマガ・Facebook 等インターネットで広く参加者を募集しました。申し込みしてくださった参加者は 7 名、西原の中川さんの指導で 5 月 28 日、タカキビ・アワ・キビ・ヒエ・キヌア・アマランサスの播種をしました。雑穀の成長が遅れ 6 月 11 日に予定した第 2 回講座は 25 日に延期、残念な事に雨天中止となりました。講師の植物研究家池竹則夫さんは豊富な知識と気さくな人柄で藤野の人気者、仮竹パウダープロジェクトの中心メンバーで私も世話になっています。池竹さんには 9 月 24 日(日)の第 4 回講座で「穀物と雑草」についてお話いただきます。7 月 9 日の第 3 回講座では中川さんとアワ・キビ・キヌア・アマランサスの間引き・土寄せ、タカキビ・ヒエの定植を行い、傾斜地でのクワの扱い方を教わりました。

7 月 14 日、篠原シンポジウムに参加した西原のメンバーの呼びかけで雑穀街道交流会が開かれました。てくてくてくで昼食をとりながら情報交換、藤野で取り組まれている日連と駅前の雑穀畑を視察しました。短い時間でしたが雑穀街道のつながりを実感できた有意義な会でした。中川さんの指導で管理作業を行っています。竹チップの八米竹林で冬に切った竹枝で「やた」という支柱を作り畝間に立て、防鳥ネットを張り巡らしました。先日の台風 5 号の暴風雨で倒れた株はなく順調に出穂しているので、鳥害が防げれば今年は豊作が望めそうです。



土寄せ



八米で作った「やた」



防鳥ネットを張った駅前畑

『INCH の楽しい仲間たち』 vol.7 その 12

『冒険探検粉塵記 第 12 話 やっと間に合った男の後塵』

駄作者 文福洞先斗

牛の蹄のあとの水たまりの中にとじこめられ、また彭祖のような長寿をもたぬわれわれには、景きな風に乗って疾やかに天空を遊行し、神馬をかけて遐かな土地を観るすべもなく、ただいたずらに日月星辰をながめやって、思いを大地の八方の果てに翔けらせるだけなのである。(魚豢 AD3C?)

歴史を探ることは郷愁ノスタルジーからではないと思います。古今東西の正史というものは、大方、英雄伝であって、大多数の庶民の生活誌についてはほとんど書かれてはいません。たとえば、『三国志』(陳寿 AD3C、今鷹・小南訳 1993)を見ると、「魏書」もほとんどが英雄伝です。当時(弥生時代末から古墳時代初)の「地理的日本」については「烏丸鮮卑東夷伝」の一部「倭伝」に記述があります。やはり大方は小諸国についての記述に費やされていますが、少しだけ、「禾稻や芋麻を植え、蚕をかってそれを糸に紡ぎ、・・倭の土地は温暖で、冬夏にかかわらず、生野菜を食べ、誰もがはだしである・・」など生活誌の記述があります。ちなみに、禾稻を訳者はイネとしています。禾は本来、アワのことなので、アワとイネを栽培していたということです。{注:「魏志倭人伝」は『魏略』(魚豢)による。}日本で最も古い水田遺構のある菜畑遺跡(佐賀県唐津)も、丘の畑ではアワを栽培していました。

そこで正史英雄伝ではない個人史の意味は歴史的に庶民の生活誌を継承するうえで、大切なものであると思います。しかし、これまでの経験からして、個人というものは自己中心的にしか物が見えないようです。もちろん例外的に、広い視野で深く洞察できる人もいないわけではないですが、・・・。

たとえば、大学勤めをしてきて、学生の皆さんの自然体験について 40 年間にわたって問うてきました。彼らはおおよそ 1956 年から 1996 年ころまでに生まれた人びとです。この間に日本国は「高度経済成長」を遂げた後、「バブル経済」が崩壊するに至りました。自然環境は経済成長を支える開発によって著しく荒廃し、また、都市化の進行で一層人々の自然離れが進んできました。生活誌が大きく変化したと考えられる期間です。

それにもかかわらず、年ごとの学生の皆さんは同じように、「自分の子供時代は自然があってよかったが、今の子供たちは自然の中で遊ばずに可哀そうだ」と意見を述べていました。自分たちはやっと間に合ったが、後輩たちは可哀そうなものだと言っているのです。アメリカはミシシッピー河のトムソーヤたちのように、敗戦後、木曽川中流で和船をこいで命がけで遊び呆けていたポンちゃんからすれば、学生の皆さんの自然体験など、あまりに細やかなことに思えてなりません。それでも 40 年間、「自分たちは良かったが、・・・」と聞き続けてきましたので、このことは大方の若者たちはまだ自己中心的にしか、経験を位置づけられないということを示しているのだと考えました。自己中心的が悪いと言っているのではなく、まずは視野が時空間的に広がっておらず、自己の自然体験の位置づけが狭すぎる点で、個人的体験の学習に問題があったのではないのかということです。

一方、別の見方をすると、後塵を拝し、間に合わなかった人々はどのように感じ、考えているのでしょうか。ポンちゃんの老師阪本は、自分は消えゆく雑穀に「やっと間に合った男」だと言いました。別の老師降矢は、自分は「最後の山村農」だと言いました。悲壮感、ヒロイズムなのか、督励、遺言なのか、老師たちの言葉に棘はないのだと思います。ポンちゃんは彼らの弟子として、学問と山村農を継ぐ者と自らの人生を律してきました。でも、間に合わなかったと断じられては続く我らに存在意義がなくなります。我らは縄文農耕や生業の知識と技能とともに、いわば黙殺、抹消されてしまうのでしょうか。稲作が弥生時代に伝わったのがこの地理的日本の農耕の始まりだという仮説が、縄文遺跡からの栽培植物

の発掘を否定し続けてきました。

しかし、佐々木高明（2013）が言ったように、考古学者や日本民俗学者による仮説訂正は何の言い訳もなく、今日ではいつの間にか縄文農耕はおおよそ常識となっています。仮説は新たな研究成果によって、改められていくものですが、それは事実に基づく情理に沿うべきです。縄文遺跡から雑穀、豆、麦などが発掘されるばかりではなく、現在でも雑穀は山村の篤農によって細々とはいえ栽培され、生き続けている、この事実を継承することが重要なのです。ところが、このくにの人々は生業に伴う伝統的知識体系、生物文化多様性の技能について、失ってはならないこととは思っていません。誠に残念で、悲しいことです。

このように、栽培植物の在来品種も、我らマイノリティも少数民族も消されまいと、現代世間に抗っているのだと思います。また、冒険者とはこうした抗う者たちだと思います。たとえ間抜けな人間と言われようと、間に合います。自ら学び、千年先を直観して、今、為すべき、かつ、できることを後世のためにしておきましょう。私たちの想いは時空を超えて巡らすことができます。優れた冒険家たちの「カリバー旅行記」「ユートピア」「すばらしい新世界」「1984」などを読み、ポンチャンも「生き物の文明への黙示録」を綴っています。正史だけが歴史録ではなく、個人史を記録しておくことは、自己にとっても社会にとっても大事なのだと思います。

常に庶民を消し去ろうとする争いの時代から、趙行徳が敦煌の莫高窟に書籍を守った行為に習って（井上靖小説）、この地の生き物に関わる生業文化を保全、継承したいと強く意思します。AI ではなく人類の想像力 SSF (Social Science Fiction) に希望を託します。たとえ、我らが忘れ去られようとしても、植物は創造的進化を止めず、一等植物研究官 E.T. やごみ処理ロボット WALL-E は千年紀を超えて植物文化をファンタスティックに復活させてくれるでしょう。



写真：左は、岡部さんが保存している雑穀在来品種の種子に見入る冒険者たち。右は、ポンチャンが失敗した陸稲畑。雨ばかりの夏で雑草を取り切れず、陸稲（手前）の生育が貧弱、出穂アワ（真中）はこぼれだねから生えた。

出版物のご案内

今年は出版物ができましたのでご案内します。①の伝統知研究会報告書は、6年間の成果報告です。会員の皆様には、会報ナマステと同封させていただきました。たくさん在庫がありますので、さらに必要な方は事務局までご一報ください。こどもかんきょう絵じてんは、見かけたらぜひ手にとってください～！

都市民と農山村をつなぐ仕事と学びの創造 Creative Learning of Traditional Knowledge and Subsistence

農山村の環境と生活文化から学ぶ都市との交流に関する
調査研究報告書

公益社団法人国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」中央事業助成



2017 年 6 月

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会



① 伝統知研究会報告書

② 木俣先生が監修した「こどもかんきょう絵じてん」



伝統知研究会報告書の中身です。写真をたくさん使ってまとめています。

○ 今後の活動予定のお知らせ (2017 年 秋～冬)

12/26-28 『冒険学校 まふゆのキャンプ』 @小菅村 2 泊 3 日

ログハウスづくり第 4 弾、トイレ棟づくりは隔週でキャンプ場で開催中！！興味ある方は事務局まで！
通常総会は年明けの 2 月に開催予定です！！

○ 夏の忘れ物のコーナー

(心あたりのある方は事務局までご一報を！！)



こすげ冒険学校 シーパン



こすげ冒険学校 くし



昨年の夏 メガネ。

○ 事務局より

● 博物館の引っ越し～伝統知研究会報告書～8 月の事業の中、腰痛とともに後半はバテました。しばらくは薪を切ったり、草刈りをしたり、キノコを探しながらのんびりと過ごしたいと思う今日この頃。 クロ

○ 事務局の麗しき日々

- ・大ちゃんがいつの間にか結婚していたもよう。おめでとう！！
- ・のんちゃんと青樹は、就職活動苦戦真最中先行曇空なもよう。
- ・雫さんは足骨折のまま冒険学校に来てリハビリをしていたもよう。
- ・はるちゃんはミシンを購入して裁縫に熱中しているもよう。
- ・だにえると土居ちゃんはバイクで小菅に登場しているもよう。
- ・佐々木さんの小菅滞在日数が激減してみんな寂しいもよう。
- ・たっくんは学芸大学に事務員として就職したもよう。
- ・翔くんは巻き尺を持って小菅の土地の測量をしていたもよう (続)

○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH (インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、30 年以上にわたって活動を続けています。2004 年から NPO として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座 (のびと研修会)』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会員には以下 8 つの種類があります。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は年額 (1～12 月) です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 賛助会員 (個人・団体)：10,000 円

家族会員：6,000 円 特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

小菅村特別会員：1 口 1,000 円から

成合基金 (冒険探検基金)：「成合基金」と記載してください。

郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 129 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日>2017 年 9 月 20 日

<編集>自然文化誌研究会 事務局

<発行>特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211

山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165・090-3334-5328 (事務局黒澤)

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P：http://www2.plala.or.jp/npo-inch/

事務局ブログ：http://npoinch.naturum.ne.jp/

次回「ナマステ 130 号」は 12 月上旬の発行を予定しています。お楽しみに！！